Ⅰ.感染対策チーム（ＩＣＴ）

平成17年よりClean handキャンペーンを毎年開催しているが、看護師以外の参加率が低く、病院全体の対策としては機能していないことが問題であった。そこで平成22年よりICTを中心に医師、看護師、薬剤師、検査技師（細菌、放射線科）、リハビリテーション部、栄養部、事務職などによる約30名のプロジェクトチームを作成し、多職種による全病院的なキャンペーンの運営にあたっている。内容は毎年同じものにするのではなく、下記内容を隔年毎に変更しており、28年度はアルコール手指消毒剤のレクチャーと実地手技確認を行った（写真）。

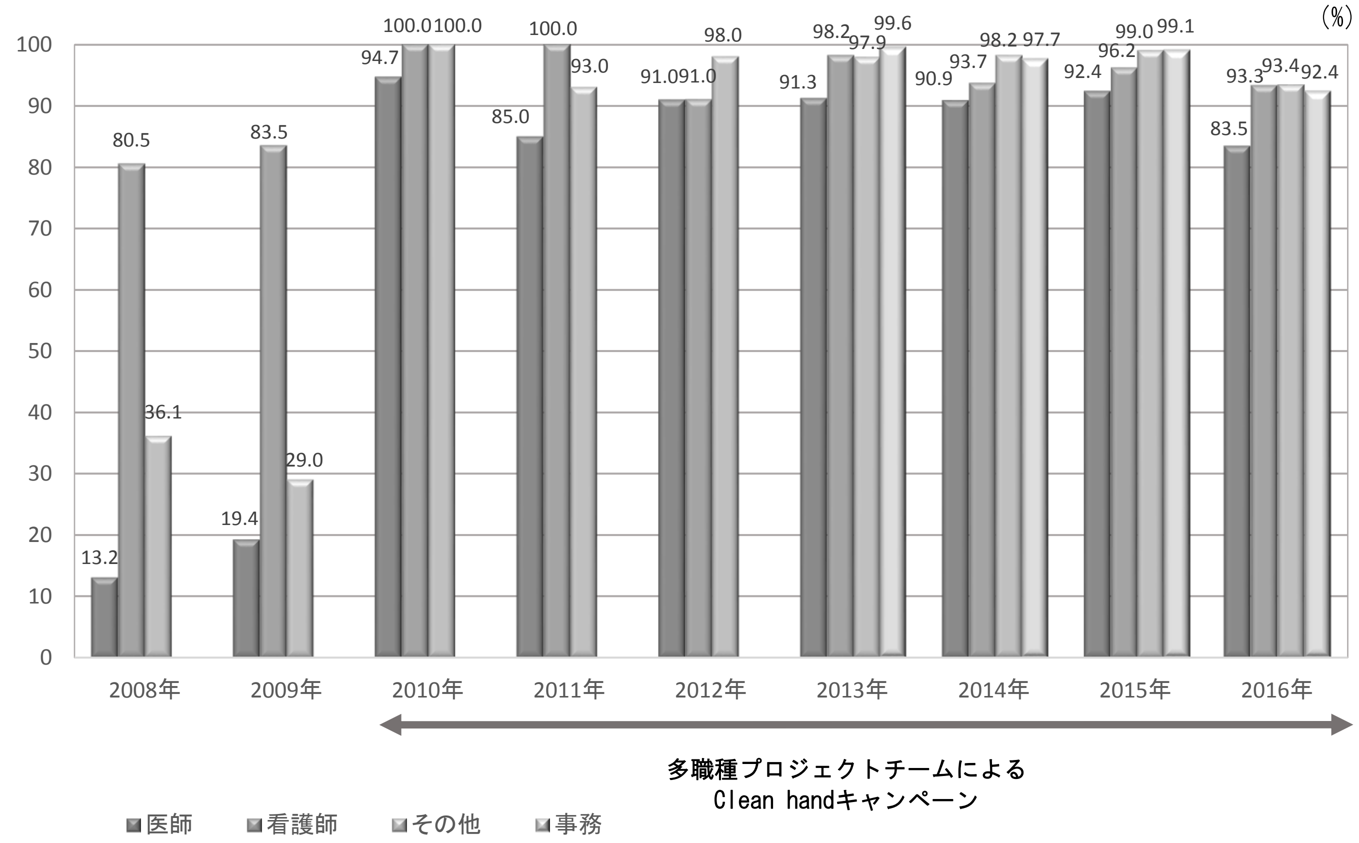
① キャンペーン前にアルコール手指消毒剤1回使用量調査を行い、それを利用したレクチャーと実技手技の確認（洗い残しポイントを意識した手技の徹底と適正な1回使用量と、刷り込み時間）

② 蛍光塗料による流水手洗いの洗い残し部位の、第三者評価（手洗い通信簿）と自己評価後レクチャー

28年度の参加者（DVD視聴を除く）は2,668名であり、全スタッフの90.6%の参加が得られた。職種別では常勤医師591/708名（83.5%）（教授 90.6%、准教授・講師 84.7%、助教・病院助手 84.1%、レジデント・研修医 79.6%、非常勤医師 52.9%）、看護師1,052/1,128名（93.2%）、その他のメディカルスタッフ507/543名（93.3%）、事務職267/289名（92.3%）であった。医師の参加は、以前は10～20%で、24～27年度の4年間は約90%を維持していたが、28年度は83.5%に低下した（Ⅰ-1）。

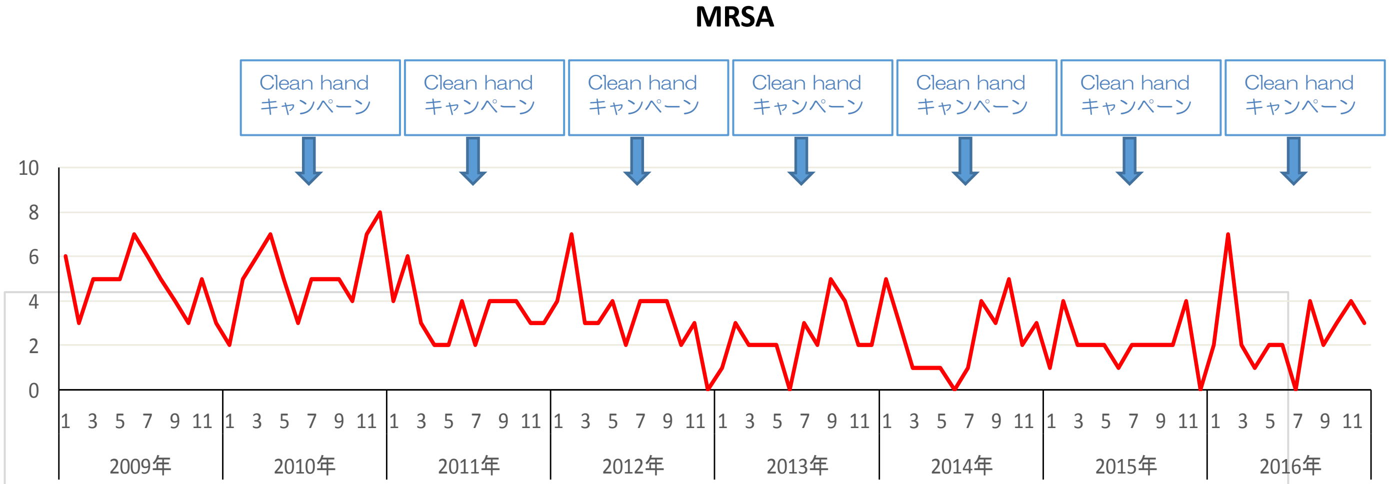
血液培養からのMRSA検出患者数は以前は月平均5件前後であったが、このキャンペーンにより2～3件/月に減少し、全黄色ブドウ球菌中のMRSAの割合（日本では約60%）も平成23年に初めて50%を切り、その後も50%を維持している（Ⅰ-2）。このように病院全体で多職種が参加するキャンペーンを行うことは、病院のレベルを底上げすることを可能とし、耐性菌対策としても有用であることが示された。

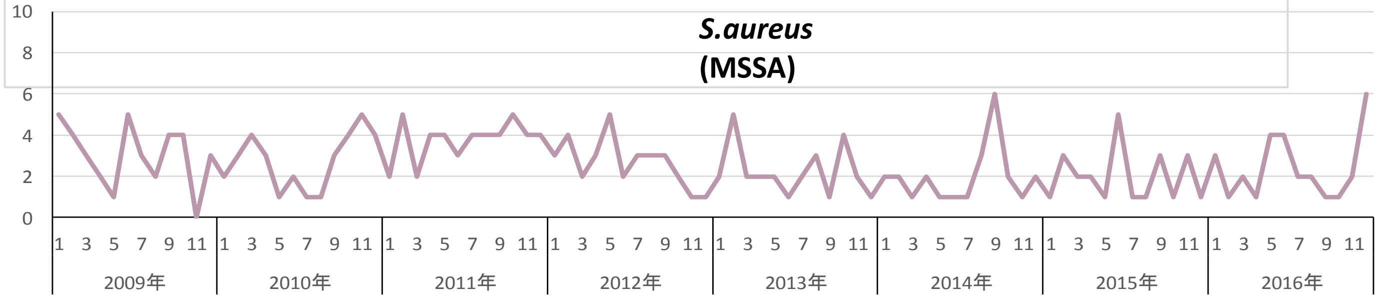
Ⅰ－1　Clean handキャンペーン職種別参加者割合の推移



Ｉ－２　ＭＲＳＡ検出率の推移：血液, 血管内カテーテル培養

MRSA／全黄色ブドウ球菌	61.3%	65.3%	47.8%	51.6%	50.9%	54.7%	50.0%	52.5%
MRSA分離患者	4.9件/月	5.2件/月	3.4件/月	3.3件/月	2.3件/月	2.4件/月	2.0件/月	2.7件/月





チーム医療の様子
―Clean hand キャンペーン―